

慶応三年四月二十六日より慶応三年四月廿八日まで

P8310679right

(四日市)あり、謝銀遣す、船山宿にて足軽兩人先払出、第六時半過四日市着  
廿六日酉 雨

第五時前四日市出立、十一時過桑名へ着、足軽兩人先導す、町奉行名刺を投す、渡海差支に付佐  
(佐屋)屋を廻る直に乗船し着船場より(水夫に聊(\*)賀銀遣す(領主設の船を不待)一□時間歩して  
佐屋本陣に至り午休、斉限空敷(むなしく)移りしより明日

明後日の泊り駅を引上げ追触を出す、第一時に出て六時過宮へ着、熱田神主来る初穂銀を渡す  
廿七日戌 陰漸晴

第四時半前宮出立、池鯉鮒にて領主忌中の趣にて町奉行人馬目付名刺宿役より差出す、岡崎  
にては矢矧(やはぎ)

(岡崎)際へ代官出役、十二時半岡崎午休、同宿分れにて□太郎別手組老人早追にて上京に出会  
掛川宿にて

例幣使供方サトウ外老人混雑一条の報告也、栄助、弥二一同にて其概略を承り、余等は何れ

P8310679left

にも其場の事情親敷聞糺し度、見込有し旨其段但岡州への伝言申含別る、入夜八時半前  
(吉田)吉田へ着、足軽老人先導す断り□よう町奉行名刺を投す、前書掛川宿一條江府へは  
別に注進不致趣

に付、早追注進の義、組頭へ達し遣す、同心庄兵衛出立、栄助来り右一條事情取しらべの為め  
先定役義左衛門差

遣し可申□の旨申聞る其通り為取計候

廿八日亥 晴

第四時半前吉田出立、新居本陣にて鯉醬醢一器を出す謝銀遣す、御□通行印鑑を宿役人  
請うにより

渡す、此方心持とは違えり、領主設けの船いまだ支度頼□恵段云々申聞に付、右を辞して  
直に乗船、第九時十五分

(浜松)過出船、十時十五分過着船、第一時過浜松午休先払足軽老人出る、当駅人足差支の趣にて  
二時を過ぎ依て歩いて出立、宿外数町にして乗駕招(まねき)よび又数町にして奴駕追ひ招よぶ、  
入本;

\*1:聊か(ごちやわか)、少し

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。